

定年退職者パワーで集落の農業を担う

農事組合法人 学頭営農

☆組合結成の経緯

学頭集落の農業の将来方向について検討を重ねた結果、農業機械を活用した生産性の高い農業をやろうと決意し、昭和59年（1984年）4月、2人の定年退職者と3人の定年退職予定者により営農組合を設立しました。

☆活動の3つの特色

1 定年退職者で作った営農組合

自己資金の出資と機械などのコスト低減を組合運営の基本に、各自が50万円ずつ出資して中古トラクターやコンバインなどを導入し、不足する機械は組合員のものを持ち寄りました。また、格納庫も廃材を活用して自分たちで建設し、経費の節減に努めました。

2 サラリーマン時代のキャリアや経験を営農組合活動に活用

定年前の職業は、電力会社の社員や農協の機械整備課長・指導課長、中学校の教師などさまざまですが、サラリーマン時代のキャリアや経験を大いに組合運営に活かしています。

3 集落営農を定年退職者の高齢者が担う

設立して20年以上経過していますが、集落の水田面積12haの8割に当たる9haの水稻全面作業受託を行っています。

新たなステージへ！

☆農事組合法人学頭営農の誕生

米価の低迷などで営農組合の運営は厳しさを増していますが、営農組合のより一層の強化に向けて、平成18年8月に農事組合法人学頭営農を設立しました。

農事組合法人学頭営農の概要

代表理事：橋本吉太郎

組合員数：13人

出資金：760万円

平成7年に高齢者集団が集落の担い手に成長した成果が認められ、日本農業賞の大賞を受賞。平成17年には、農村漁村いきいきシニア活動表彰として、最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞

